

2023年10月15日(日)10時から

文化庁アートキャラバン事業 特別公演

俳優館 ミュージカル「あらしのよるに」アフタートーク

参加者 : 大人6名 子ども2名(小学1年男子と高校2年女子)

(\*9月30日実施の9月舞台鑑賞例会 京芸「へんてこげきじょう」も併せて)

\*前半は、9月例会人形劇について。例会当番、初体験の小学1年男子に質問が集中する。

大人(小1男子の母):家で、こんな風に観劇の感想を話し合う時間がなかなかないので、アフタートークは面白くて参加している。

高校生:我が家は、帰りの車中でよく感想を出し合う(今回参加していない小学6年の妹と母も会員)。一緒の作品を観ても、いろいろ違うから面白い。

—今日は参加していない小学6年の妹さん、愛媛ケーブルテレビの情報番組で10月9日の「あらしのよるに」の宣伝で、たくさん原稿を読んでくれて大活躍だった!何か感想は聞いている?

高校生:「おもしろかった!」と言っていた。よく舞台前のご挨拶をしているけれど、同じような感じで体験してみたいだった。

—「あらしのよるに」の話になったので、感想を聞かせて。小学1年生はどこが印象に残っているか?

小学生:オオカミの目が赤く光るところがすごかった!

—カッコよかったよね。いつもよりちょっと長いお芝居だったけど、座っているのは疲れなかった?

小学生:ちょっと長かった。

大人(小学生の母):原作の絵本を読んできたくなった。今度一緒に借りに行こうねと話していた。

大人: 主演の二人の演技がよかった。「ミュージカルに分類されるの?」と聞かれる位自

然に歌が入ってきて、興行用ミュージカルとはまた違った作品だと思った。

大人：「ダンスは真似できそう！」とベテラン 70 歳代の会員さんが感想を言っていたのでびっくりした。意外と足が高く上がっていたのに、出来そう！って感じたんだと思って…（一同笑い）あと、同じ会員さんから「メイがガブに食べられるストーリーだったら良かったのに！」という感想も出てきてびっくりした。「命の大切さを語るなら、実際に食べらるという行為が出てこない！」という思いだったみたい。大人向けのストーリーだったらいいかもしれないけれど、対象が幼稚園・5 歳からの作品としては衝撃が強すぎる感想だと思った。

大人：「劇団四季など他のミュージカルを観慣れている人だったら物足りないと感じるかもしれない」という意見には賛成。歌のソロが少なかったり、ダンスの派手さが少なかったりと本当に作られ方が違う。初めてのミュージカル作品として取り組んだら良いと思った。ダンスはもうちょっと高度なものを期待したい！

大人：メイの友達が出てくるシーンがおもしろくて好きだった。2 回観たが 2 回とも最後に泣いてしまった。

大人：原作を知らずに観劇して思ったことは、ガブもメイも、簡単にコミュニティから抜け出してしまうところに衝撃を受けた。育った環境を捨て去れるくらいの友情ってどんなものだろう？と、原作を読みながらいろいろ考えたいと思う。

大人：地域ブロックで、原作絵本 1 巻だけの読み聞かせと、オオカミが出てくる他の絵本の読み聞かせを 8 月に実施した。1 巻が発刊した当初は、まったく続きを考えないでいたという制作裏話を聞いて楽しみにしながら観劇できた。

—大人の意見もいろいろ出ていますが、高校生はどう感じた？

高校生：友情系のお話だと思った。今現在、友達関係で悩んでいるので、あまり共感できる部分が少なかったのが残念。

（大人一同「思春期、女の子の友情は大変よね。」からしばらく話が脱線）

—そういえば、今回のガブとメイは男の子同士の友情を描いていましたね。

大人：他のおやこ劇場、子ども劇場で「あらしのよるに」がなかなか例会作品に選ばれない理由が、「コミュニティから逃げる 2 匹が“駆け落ち”に見えてしまうから」と聞いたことがある。今回はそんな風に見えなかった。

—再会したときに、ガブが「メイくん？」って呼んでいた。

大人：今回の俳優館さんの作品では駆け落ち風に見えなかったのはそのせいかな！

大人：（スマホで検索した結果を読みながら）原作では、性別は決まっていなかったようす。原作者は、ヤギは男の子を想定していた、とは書かれている。

—観ている方の先入観もあるかもしれない。

大人：他の劇団が演じる「あらしのよるに」でもオオカミが男性でヤギを女性が演じていることが多い。そのせいで、駆け落ちに見えてしまうのだとしたら、観客側の思い込み（ジェンダーバイアス）が働いているのかも。

大人：オオカミとヤギが女性同士だったらもっと違う展開になっていそう。

高校生：そうそう。

大人：確かに。コミュニティを逃げ出す結果にはなっていないさそう。上手に隠して、ずーっと長い付き合いを続けていそうだと思う。

大人：気になるといえば、劇の終わりは記憶が戻ってよかった…で終わったけれど、オオカミは何を食べて生きるんだろうと。普通には生きられない困難が待っているはず。その後がとても気になった。

大人：広報する中で、図書支援員さんからの期待がすごいと体感した。1巻から7巻までの物語を70分のミュージカルにするなんて「すごい！」との声がたくさんあった。

—一緒に観劇できた方から感想が聞けたらまた共有しましょう。今日のアフタートークはここまで。ご参加ありがとうございました。